

## 2022.08.14. 放蕩息子のための両親の祈りの力

天のお父様。本当にありがとうございます。私たちはあなたに心から感謝します。

主よ、今夜、あなただけが、あなたの聖なる御名によって、すべての栄光、すべての賞賛、すべての誉れを受けられます。なぜなら、主であるあなただけが、私たちのすべての賞賛に値するからです。

主よ、今夜、力強い証になりそうです。時に生々しさを感じるでしょう。しかし主よ、あなたはとても忠実であられ、私たちはあなたに委ね、共に過ごすこの時間に祝福をお願いします。主よ、ここにいる人、これから見る人、ライブで見ている人で、特に、放蕩息子や我儘娘を持つ人たちが大いに励まされ、大いに祝福されることを祈ります。イエスの御名によって祈ります。アーメン、アーメン。

まずは自己紹介から始めませんか？ ガブリエル：アロハ！（会衆：アロハ）もう一度やってみましょう。アロハ！（会衆：アロハ）

私たち家族は、教会の家族、オンライン家族の中で、このように神の証をする機会をいただき本当に感謝します。主が私たちの生活の中で、どのように働いて下さったか。これは、私たちが何年も何年も歩んできた旅です。皆さん今夜、それをご覧になります。ということで、私の素晴らしい両親、私のとても愛する両親に引き継ぎます。

父：私はガブリエル・グティエレスです。私はこの島の出身で、ニューヨークで育ちました。ニューヨークにて海兵隊に入隊し、輝かしい23年間を過ごしました。

母：私はエヴァラニです。多くの人は私のことをラニと呼びます。私も軍に所属していました。カウアイ島で生まれ育ち、そこからが祝福でした。素晴らしいものを見て、素晴らしいことをするために、思い切って海軍に入隊しました。神は私に美しい家族で祝福してくださいました。その全ては他の方法では得られないものです。この話を皆さんに共有できることが、とても光栄です。主は、こんな素晴らしいことをして下さり、それが今日、すべて集大成だと思います。私がこの世でできたことで何かあるとすれば、本当に重要なのは今日です。この旅は私たちだけのものではないからです。それは本当に、主と主が私たちの人生になされたことを称えるためです。敵は敵なのですが、しかし私たちの主は力強く、私たちをとても愛してくださっています。だから、本当に今日は、主のためなんです。その話を共有できることは、私たちにとって大きな喜びです。ガブリエル：日曜日にお話ししたように、私は、LGBTQのライフスタイルに夢中になっていました。それが、とてもとても長い間、私たちの生活の一部になっていました。私の幼少時代に起こった出来事についてお話ししたいのですが、それが原因とは思えません。しかし、敵が私に嘘を信じさせるために使ったものだと思います。この証を通して、敵がどのように私たち家族に絡みつき、浸透していったかが分かると思います。今夜、私が話すように、皆さんに理解していただきたいのは、これが霊的な戦いであるという心構えで、私は最善を尽くします。これは、常に霊的な戦いです。事実「エペソ人への手紙の6章」について話したいと思います。

### エペソ 6

10（口語訳）最後に言う。主にあって、その偉大な力によって、強くなりなさい。

11 悪魔の策略に対抗して立ちうるために、神の武具で身を固めなさい。

12 わたしたちの戦いは、血肉に対するものではなく、もろもろの支配と、権威と、やみの世の主権者、また天上にいる悪の霊に対する戦いである。

何か言いたいことは？

母：私たちは軍隊のキャリアについて話しましたが、典型的な軍隊の家族でした。画面の通り、皆さん分かると思います。

JD：軍隊のスライドです。

母：私たち2人は軍で働いていて、ガブリエルと、父ガブリエルの方、テイトです。

彼は、砂漠の嵐に行き私は海を渡ってきました。ご覧の通り、これが私の最初の船で、私たち家族と共に昇格をしていきます。軍の家族ではよくあることです。しかし軍隊にいと留守にして、子どもたちの重要な節目にいないことに葛藤がありました。それは子どもたちが経験したことのために子どもたちが軍隊に入ることを検討するのは本当に難しいと思います。恐らくそれが、最大の課題の1つです。そこにいないので、私たちが見逃してしまい、私たちがいない間に何かあったかもしれないという罪悪感があり、それが事態を招いたのではないかと感じています。息子が分かち合いますが、そのことが、私たちを悩ませたと言えらると思います。でも神は良い方です。

ガブリエル：ええ、もちろん、もちろんです。お話する前に、私が今夜話すこと全ては、純粋に真実と愛からだ理解ください。今夜の私の主な目的は、何よりもまず、証を分かち合って、イエス・キリストに全ての栄光を帰す事です。以上。第二に、多くの人が生きている暗い現実光に光を当てることです。そして最後に、現LGBTQのライフスタイルに囚われている人や、大切な人がLGBTQのライフスタイルに、未だ囚われている方に希望を与えることです。お話しした通り、私の幼少時代、あることがありました。そして今までにも、家族で話し合ったことはありません。私たちは、それが起きたことを受け入れ、そこから前に進み、平和を取り戻す。それが私を定義するものではなかったことを知っていました。それは、私が何者なのか至らしめるものではなく、でも、それは起こったことなので、そこから前に進まねばなりませんでした。しかし再度、それが敵が植えた種でした。母は「何年も何年も不在だった」事実を口にしました。私と妹は、カウアイ島の祖父母のもとで多くの時間を過ごしました。祖父母は素晴らしい働きをしてくれました。それだけはお伝えしておきます。私たちを最高の方法で育ててくれたのは素晴らしい働きです。私たちは愛と家族に囲まれて典型的なクリスチャンとして育ちました。しかし、残念ながら敵は、さまざまなケースでそうするように、そこに潜り込んできました。幼い頃私は、同性の人に性的暴行を受けました。そして、残念ながらその出来事から数年、それが続いてしまったのです。それがきっかけで、その後の人生を選択した理由とは思っていません。しかし、間違いなく足がかりになったのは事実です。敵が私の思考に入り込む足がかりとなったのです。このような経験をしたことがないはずの多感な若者の思考に疑念を抱かせました。その経験とともに、敵は種を植えました。私は子どもの頃、過剰なほどのいじめを経験しました。物心ついた時から、女みたいだとからかわれました。激しいスポーツをしたり、外に出て泥んこになって遊んだりという典型的な男の子の遊びは楽しくありませんでした。本当は家の中で祖母に料理を教わったり、絵を描いたりしたかったんです。それが私の子ども時代でした。でも、もちろん敵はそこにいて、すでに植えた種を煽るためそこにいて、私に疑問を抱かせます。

私の存在への疑問。私の生い立ちへの疑問。神が私たちのために持っておられる全ての御約束への疑問。そして、高校生になってから、本当に受け入れられるものを探そうとしました。JROTCでは、本当に活発に活動するようになりました。※ジュニアリザーブオフィサートレーニング隊 いくつかのスポーツに挑戦しました。何人かの女の子とデートもしてみました。しばらくは順調だったんです。コツがつかめたような気がすると思いましたが、しかし、私が呼ばれていた言葉、からかわれて馬鹿にされていた言葉を聞く度、それが深く心に響くのです。幼い頃に性的な関係を持った相手を見るたび、私は深く傷つき、思

い出させます。繰り返しますが、若者の思考に入り込むためこれが敵の計画です。こんにち、敵がやろうとしていることは、まさに教科書（敵の手引き）通りだと皆さん同意されると思います。私たちはそれを目にしていきます。ですから今日、私たちはそのような状況に少しでも立ち向かい、暗闇に光を照らすことができればと思います。そういうことを経験した若者としてクリスチャンの家庭であることを知りながら、あらゆる間違っただけの人に助言を求めます。それは主の教えに反することでした。求めていた反応は得られそうにありませんので、そこで、友人を頼りました。もちろん、間違いなく、偶然にも、私の親しい友人が、高学年になると、ゲイであることを公表しました。それが、私の心の拠り所でした。それが、私が相談した相手でした。彼は、虹とキラキラの世界に私の目を向けてくれました。ただすべてがキラキラと輝いていました。私はこんな感じでした。「OK。私はこれをできるぞ」私には共通点があるのが分かるんです。それが卒業する時点で、高校卒業をしたばかりでした。私は反抗的な10代でした。学校にはあまり行っていませんでした。私は、いつも外に出てパーティーをする、そんなライフスタイルにとらわれていました。実際、あのスライドをご覧くださいね？ 全てを物語っています。はい、それです。自慢できることはありません。でも、親がどう接すればいいかわからず、傍観していたときに、私が親に何をさせたのかきつと分かると思います。私が公表した時、こんな中途半端なものではダメだから、私が同性愛者であることを宣言する。そして、これは難しい会話でした。

母：ええ、皆さん明らかに、うまくいかなかったと想像なさるはずですよ。二人とも軍人で、スライドを出して頂けますか？ このように、海やキャンプ、釣りなど、アウトドアが大好きなこの素晴らしい、美しい家族の一員だと意識していて、そして、この子がパーティに出かけていることは気づいています。子どもが学校へ行き、自分自身を成長させることを望んでいます。なのに息子は、この世界に引きずり込まれ、私たちの知らない方向へ確実に舵を切っていたのですよ。そこが残念なところですよ。それが起こって、その時この子は、ついに私たちにこう打ち明けたのです。

ガブリエル：というのも、当時は反抗期だったので、とても面白かったです。それを正しい方法でしませんでした。私は、両親を座らせて、母さん父さんに、楽しく話をしようとは思いませんでした。僕がしたこと、自分のパソコンのスクリーンセーバーを変更しました。だから両親は、見たくもないことを私がしていることを知るわけです。それで会話に繋げて、本当に、私はただそれを押し進め、ハードルを押し、両親の愛を圧迫し、「ほら、自分は何も悪くない。」とそれでこんな風になったのです。「ほら、ねえ、これが僕だよ。僕を愛してる？ これってかっこいいでしょ？ 僕がしている事なんだよ。」もちろん、愛を持って、言われました。私たちは、あなたの選択には付き合えないと。同性愛者になりたい選択をしている事実を、完全に囲い込めるほどでもありませんでした。学校に行かなかったことが原因でした。私は、その期待されていることをやっていた。その日その日を暮らしをしていたんです。自分が求めていたものを受け入れてもらえず、両親が求めるものに合わせるつもりもないという地点に来ていたのです。だから、家を出ることになったんです。結局、引っ越しました。私は、素晴らしいアドバイスをくれたその友人と同居することになりました。私は、自分一人で、キラキラしたライフスタイルを送るという冒険をしようとしたのです。

父：では、正直に言うと、私は十分な準備ができていませんでした。ここに、いわゆる強靱な海兵隊員がいます。空と陸と海を守りながら 自分の息子を守ることができなかった。それはおそらく、これまでで最も困難なことの1つだったでしょう。戦闘の従軍兵であり、そしてそれに伴ういわゆる栄光、強靱な家族、強い海兵隊員でありながら。このような事態になるとは思ってもみませんでした。どっちに行けばいい

いのか、分かりませんでした。私は神に「なぜ？」と問い続けました。

「これが聖書に多く書かれている、いわゆる刈り取りと種まきなのでしょうか。」と。

あの時、私は心の中で「息子の過ちは父親である私の過ちだ」と言い続けました。だから罪悪感に支配される。何年も奮闘しました。よく泣きながら眠りに着きました。母が元気な時は、かなり話をしました。今日、母は 89 歳で、アルツハイマー病と認知症を併せ持つ、いわゆるやっかいな状態です。でも、母はいつも私に言いました。

「祈りなさい。祈ることを決してやめてはいけない。何をするにしても 見捨ててはいけない。なぜなら、神は決してあなたを見捨てないから。」それが私の慰めの歌でした。昼休みに海岸へ行き、祈りました。祈って母のところへ行くと、言われるのです。

「あなたは懸命に祈ることが足りないかもしれない。祈り続ける必要がある。あなたが、戦地に赴いたとき私は祈ることをやめなかったのだから。」そこで、自分の心地よい領域を見つけました。それしか、家で起こっている事実を処理する方法がなかったんです。失いたくなかったから、対立したくなかったのです。自分が対処できる唯一の方法は、思いやりを示すこと。愛を示すこと。しかし、決してそのライフスタイルを受け入れることはありませんでした。

ガブリエル：私が受け入れて欲しかったのに、それを手に入れられなかったのが完璧です。このコミュニティでは、信じられないかもしれませんが、そういう事が起こりがちです。個人でも多く、特に 2005 年、2006 年頃の時期はそうでした。今のような華やかさはありませんでした。まだ、烙印というか、拒絶感があったんです。こんにち、メダルをあげようというのですよ。(正当化してもらえる) 全く別の次元の話です。しかしそうすると、結局、孤立して路上に追い出されたり、家族に拒絶されたりした人たちは、コミュニティの中に安らぎを求めるようになります。その結果、代替家族を作ることになり、ドラッグ・ファミリーと呼ばれます。本来であれば、地域の年配者たちが若者たちを受け入れて、善悪を教え、両親の穴を埋めるはずだったのです。うまくいく場合もありました。場合によっては大丈夫でした。でも、多くの場合、敵が家族という単位を攻撃し、思考を洗脳し、聖書の真理に反することを教えるための、もう一つの機会になります。私は、聖書の真理を知ることがとても大切だと思います。それだけが、私たちの拠り所です。それが多くの人を養い、育ててきたのですからね。しかし、神は。ありがたいことに親切な人たちに出会えたことは祝福でした。聖書の真理は教えてもらえなかったけれど、彼らは常に私に、心から愛せよ、思いやりを持ってと教えてくれました。今日までお互いを大切にすることを。この人たちのために、私は今でも祈り続けています。彼らは今でも私の人生の一部です。彼らは私たち家族の生活の一部です。どんな時も見守ってくれました。両親は時折、彼らに寄り添えたのです。でも、繰り返しますが、その聖書の真理の部分が欠けていました。それが分かったのはずっと後のことです。

母：ええ、息子が新しい母親ができたと話した時、その辛さは想像に難くないでしょう。私は自分の息子を他の誰かに奪われようとしていました。とんでもないです。この新しいコンセプトを知るのは、とても興味深かったのですが、しかしご自分の息子さんを想像してください。あなたを拒絶しているだけでなく、他の誰かをママと呼んでいるのですよ。あれは確かに辛かったです。苦労しました。

ガブリエル：ええ、今から良くなりますからね。皆さん、これはもう数年前のことですが、私はマウイ島に移り住み、不動産業を営み、うまくいって、たくさんお金を稼いで、熱血で傲慢な男になっていたんです。私はまさに世界の頂点にいました。私は旅行しまくるわ、誰がこの家族を必要としているのか？と。私は、どんどん離れていきました。

年に1、2回会えればいいほうだった。たまに電話するくらいです。でも、2013年に、2013年12月、ハワイが同性婚を合法にしました。当時まだ見通しが立っていなかったのですが、この機会に、両親の愛をテストしました。具体的に、母を。私たちは、2階の母の部屋で、普通の会話をしていました。母に聞いたのです。「もし僕が結婚を決めたら、どうする？」母は私を見て言いました。「それは受け入れられないわ。」私はこんな感じです。「どういう意味？受け入れられないってどういう意味？僕はあなたの息子だよ。母さんを愛していて、母さんは僕を愛している。質問するまでもないだろう？」

それで母の答えに、私は震撼しました。母は言いました。「そう、それは真実よ。私はあなたを愛している。でも私はイエスを愛している。あなたが言っている事は、イエスの教えにはそぐわない。」

私は母を見て言いました。「そうなの？母さんはイエスを愛しているの？彼か僕かを選んで。」

母の目に涙が浮かびました。母は私を見て言いました。「イエスを選ぶ。」お～それが私の芯に突き刺さりました。実の母親が、血のつながった私よりもイエスを選ぶということが理解できなかったのです。その日から、混乱し、怒り、傷つきました。つまり、母を恨んだのです。イエスを恨みました。その後、時間の問題だったと思います。始まりから終わりまでと言ったところでしょうか。ただ、このスパイラルに陥ってしまったので、両親に私の痛みを感じてもらおうと思ったのです。この時、数か月後に、私は薬物使用のパーティーで罪深い楽しみを知ってしまったのです。この時点まで、私は薬物をやったことがなかったんです。私は25歳でした。私はただ、外に出てパーティーをして生活していただけでした。その数か月後、私は「もっといいアイデアがある」と思いました。ベガス(罪の町)に移住する。両親は、このような事態を目の当たりにして、こう思わせられる。「ああ、私たちは本当に息子をコントロールできなくなったんだ。私たちは本当に彼を失いつつある。」それが信じられないでしょうが、私の意図の一部でした。私の意図は、私の痛みを感じさせることでした。両親を圧迫するため、時に、ナイトクラブでシャツも着ないで、撮った写真をSNSに投稿したり、もっと悪いことにお金が必要なとき、夜中に電話する。実際に…、父さん、私が電話する度になんて言ってたっけ？前は音声を出していましたね。まるで…、私は決して忘れません。「いくらだ？」実は、以前は着信音を最後まで聞き届けていたようなものです。ちり～ん、ちり～んとレジのように、「いくら？」と。しかし、彼らを称賛しなければなりません。本当です。私が憎たらしくて、意地悪で、醜くても、両親は私を愛してやまなかったんです。両親は決して気遣いをやめないのです。

母：そのテストにさらされたときを振り返ってみるとね、たとえ私が何を言っても、息子は耳を傾けたくなかった。それが今日よくわかります。そう、私はあなたを愛しています、しかし、私たちの主は、私があなたを愛する以上にもっとあなたを愛しておられます。そして、私のすべての欠点も。ええ、私たちも最初は、生ぬるいクリスチャンだったでしょう。私はクリスチャンですが、当時、私たちが経験したことのための備えが整っていませんでした。それが大変重要なのです。なぜなら神が、私たちにそんな炎を経験させられるのは、「わたしはあなたが欲しい」からです。主は私たちのために戦って下さっています。

「わたしを探し求めなさい。わたしの力を借りに来なさい。」この世界は、それ自体が闘いなんですから。神抜きで挑んでも、それはうまくいきません。絶対的に。その中で、私たちの信仰が試され、神を褒めたたえることによって、私は主への愛を貫くことができました。主はずっと私の為にそこにいられます。皆さん、話はもっと良くなりますからね。そう、主がされたことは凄いです。それを主に委ねたから。

ガブリエル：そう、両親は懇願し続けました。「御父よ。どんな手段でも、息子を家に戻してください。」そのことが、その後の展開に大きく影響したと思います。1年ぐらい経った1月のこと、私は逮捕されま

した。この時点まで、法律的にはいい子だと思われていたんです。逮捕された事もなかったし、警察との関わりはごくわずかでした。しかし、ここで私はラスベガスの刑務所に薬物・過剰摂取で逮捕されました。正直なところ、中程度、Bクラスの重罪です。それで、この時、私はとても壊れて、迷っていて、「私はいったい何に巻き込まれたのだろうか？」私は信じなければなりません。この事態には、神の御手が最初からあったことが分かります。私の保釈金から始まって、最後までずっとそうであったことがわかると思います。保釈金は約34万円。私は言いました。「お～約34万か。良かった。」保釈金の支払い可能申請。すると1時間後、警官が戻ってきて、請求額が上がったと言うのです。「何だって？なぜそんなことが起こるのか？」約340万円になりました。う～「大丈夫。」保釈金管理者のところへ行きました。まだ10%分ですが。保釈金支払い申請。3時間後、警官が戻ってきました。「君の保釈金が増額された。10倍の約3400万円だ。」その時、とてもよく分かりました。上にいる誰かが私にそうしているんだと。誰が想像できたでしょう。神が私たちの人生に働きかけてくださる事に保釈金の増額も含むとは。間違いなく私ではありません。しかし、神は、囚われの身となった私に、忘れられない方法でご自身を現されたのです。1つの出来事を共有したいと思います。この時、そこで3、4日は経っていたかもしれません。怖くてたまりませんでした。私はベガスのCCDC/クラーク郡拘置所にいたんです。殺人犯や強姦犯と一緒に放り込まれました。あらゆる犯罪者です。ただ、どうしたらいいのかわからなかった。そこで自分にできる唯一の事、神に近づきました。私は祈って、ここから出して下さるようお願いしました。「助けてください。助けてください、主よ。どうしたらいいのかわかりません。もう終わりです。これは私じゃない。」そして本を読み始めました。あそこには非常に良い本があるのですよ。私は聖書を手に取り始めました。ある夜、読んでいた書は、題名や著者を思い出せたらいいのですがそれが私たちの励みになりました。砕かれて、、、信じるか信じないかは別として、刑務所にいる私たちに語りかけています。「私たちの主はいつもそこにおられる。主はいつもそこにおられ、応える準備をしておられる。」この著者は、私たちの祈りの中で、私たちを励ましてくれました。主に近づいて、主が答えられても驚かないでください。それで、消灯になったんです。キャンプ・スヌーピーと名付けました。こんな大きな部屋に、文字通りバラックのようなベッドがあったからです。そして壁に沿ってトイレが並んでいますある時点で消灯になって、しゃべらず、動かず 何もしない.....で、寝床にいます。ベッドに横たわり、ただひたすら主に懇願したことを覚えています。

「主よ。あなたが必要です。あなたに聞こえているかどうか分かりませんが、あなたがそこにおられるかどうか分かりませんが、神様、私の懇願を聞いておられるなら、どうか教えて下さい。ここにおられることを教えて下さい。ただ、教えてください。」「ここにおられることを教えてください。」と私が言い終えるや否や、壁際の全トイレが一斉に流れだし、大きな反響音が聞こえました。つまり、この場所全体に響いたんです。そしてこのような音が聞こえました。「ここにいます。」まるで威嚇的で怖かったです。でも私は、主が応えて下さったことに、安らぎを覚えました。即効性があったという感じで、いつもそうなるわけではないと思うのですが。事実、いつもそうなるわけではないことは知っていますが、私のためにそれを示して下さいるほど、神は気にかけて下さったのですね。そして、時間が経つにつれて、その後、友達もできました。主はそれが嫌だったのでしょう。友達ができ、トランプをするようになり、この時、主は捉えた聴衆を失くされました。それで主はどうされたのか。主は私を移送されました。主は理由もなく私を別の刑務所に移されます。私はただ別の刑務所に引っ越しです。今回はキャンプ・スヌーピーではなく、2人で独房に入れられ、頻繁に監禁されます。それで、主は再び聴衆を捉えられました。そして、

こんな顔をしたのを覚えています。「なぜ僕は移送されるの？ どうなってるの？」ちょっと慣れていったのに。神はこんな感じでした。「違います。そのためにここにいるのではありません。そのために設定したわけではありません。敵が騙すのを許したのは、あなたの人生のこの瞬間のため、わたしがあなたに自分自身を明らかにするためです。」そして時間が流れ、私は、どんどん読み進めるようになりました。そして、再び快適になったのです。そして、主はどうされるのか？ また私を移送されるのです。信じられませんでした。神はご自分を示しておられるのです。「ダメ。あなたには理解できない。この頭の固い子よ。わたしはあなたの注意を引こうとしています。」それで、私は書の中に戻りました。3、4書は読み終えたと思います。聖句を出来るだけ多く読みました。当時の私には、とても理解しにくいことでした。まだ聖霊が宿っていたとは思えません。神が現実のご存在で、ご支配されていることを受け入れ、理解できるようになった後、神はついに私を解放されました。約一か月後、釈放されたのです。この時点で光を見て切り替えた、と言いたいところですが、私は、よく聞くような「手に負えない学習者の一人」でした。自分の肉に屈し、元の生活に戻るのは時間の問題でした。ただし今回は、真のラスベガス流に私は”掛け金”を上げることにしました。覚せい剤とギャンブルの罪深い楽しみを知ってしまいました。私は、娯楽的なパーティーの薬物使用者から本格的な中毒者になりました。使わないとベッドから出られないくらいになったんです。毎日ギャンブルに明け暮れていました。持っていたお金全部を。食事の機会があるなら、私はギャンブルを選びましたこの時、4000キロ離れた場所にいる両親が、息子が枯れていくのを知りながらどれほどストレスを感じていたか、想像に難くありません。

母：ええ、息子が実際に刑務所にいたときの、私の日記からいくつか紹介しますが、私たちは間違いなく、ひざまずいて祈りました。私たちはとても疲れていました。でも私たちは神を信じました。希望がありました。息子が出て来てこう言う「やったよ。やった。」主は、息子が先ほど話した通り、息子の為にご祈られる。わ～祈りが息子の人生で働いています。いつも家で膝をついて祈るのです。泣きながら、私たちの主を真剣に求めます。主は良い事をなさっておられます。主は素晴らしい働きをなさいます。あんな痛みも、今がちょうど折り返し地点だと思いました。私は聖句を分かち合い、ただ本当に努力し、それを心に留め続けました。そして残念なことに、私が知ることになるのが、耳がふさがる事です。息子が言ったみたいに、「こんな素晴らしいことをやっているんだ。」でもこの時点で、私たちは中毒者を相手にしているのです。他のライフスタイルを選んだ人から、今やその罪に縛られている人になっています。どっぷり浸かっています。息子はそれに夢中になって、仕事は上手く行って、でも、「食費が足りない」と言う所まで落ちました。ですから息子にカリフォルニア・ピザ・キッチンギフト券を送りました。息子は枯れ果てていっているのです、私の中の母親が、彼が食事をするようにと。息子は、潰瘍性大腸炎の慢性的な問題があり

ガブリエル：薬物使用も、飲んでいた薬すべてのせいで、腸に負担をかけてしまい、潰瘍性大腸炎と診断されたんです。事実、あまりにひどいので、自分のことを顧みないほどになってしまったんです。それで内出血が始まりました。私の抱いた恐れの一つが、敵が私の思考に本当に植えたのですが、HIVに感染する恐れです。それで医者の方へ行くのが怖くて、HIVと診断されることを恐れました。こんにち、それが死をもたらさないことは分かります。長く豊かな人生を送ることができ非常に多くの選択肢があります。しかし、何らかの理由で、敵が植えたこの種が、心の奥底で食い尽くすのです。それで医者の方へ行くのを拒否し、出血多量で自分の部屋で、文字通り流血していました。私は母に電話をし、出血が多いためトイレで気絶しました。カウンターにぶつかって、目に傷を負ってしまいました。ホフク前進のよ

うにベッドまで這って行って携帯を取り、母にさよならの電話をしました。私の可哀そうな母は、何もできないまま、息子が文字通り死にそうだということを聞かざるを得なかったのです。助けを求めるために医者に行くことも拒否しました。これも、彼女が私の母として、神を信頼し、一步踏み出した別の機会です。この時を、強調することは大変重要だと思います。もし神がおられなかったら私は今生きていないでしょう。私は今生きていないでしょう。神がとりなして下さった出来事がたくさんあって、仰いました。「いいえ。わたしはあなたに計画があります。わたしにはあなたに計画があります。」

母：一緒にパーティーをしていた息子の友人の一人が医師だったことが興味深いです。私はその医師と電話で話したのです。息子のそばにいてあげられないからです。彼は点滴を施してくれました。何の医師だったか忘れましたが、それは、かなりの違いをもたらしました。ですから、主はそこにおられるのです。息子のパーティー好きの友人の一人が、実際にそんな能力を備えていたとは、なんと不思議なことでしょうか。

ガブリエル：強調すべきは、神は誰でも用いられることが御出来になるという事です。神のご主権で、救われていない人、信者でない人をも、ご自分の目的を果たすため用いられることが御出来になられます。この場合、一緒にパーティーをしていた人を使って、私を蘇生させ、救って下さいました。結論は、お分かりのように、私がどれほど深い泥沼にはまり込んでいたか。私は本当に自分の罪の奴隷でした。自分がどうこの束縛から解放されるか、まったく分かりませんでした。目が覚めて、本当に分からないのです。「どうやってここに来たのか？ なぜ、こんなことになったのか？」薬を使わず、2、3時間もいられないんです。食事はしていない。食欲がない。考える事は全て、(ギャンブル) マシーンにお金を入れる事。マシーンから何かを取り出したら即、またお金を入れたいくなる。まさに悪循環でした。ハムスターボールに乗っている気分でした。回って、回って、回って、どこにもたどり着けない。ですから、両親の祈りは、、、母が言ったことを覚えています。実際、母に言いたいのですが、母は、同じような人の証に慰めを見出した。だよ？

母：そうなのです。証には大きな力があるので、私はさらなる義務を感じます。私は、多くの証を見してきました。それがどれだけ人々の生活に役立っているか分かります。それが皆さんに希望を与えますよね？「神は現実です。神は偉大なことをなさいます。ただ見ていなさい。」間違いありません。今夜、私の心に響く証の人がいます。とても感謝しています。ですから、ガブリエルの場合のように、全ての闘争と、ただ全ての祈りとひぎの痛みで無力感を感じながらベガスに行き…、私はもう決してベガスに行きたくありません。本当に、自分が興味のないものばかりが並んでいる気がします。そこにいる目的なく行き、ただ息子の体調を整えるため、、スムージーを作ったりとかね。でも悪化する息子を目の当たりにして…愛と思いやりからその旅をするため遠くまで行きます。そして私たちは部屋を用意し、「息子よ、いつ来るの？」と聞くと、息子は薬物と依存症で、私たちがそこにいることさえ許さなかった。息子が実際に会ってくれるまで、私たちは昼まで、いやたぶん午後もずっと待っていました。本当に苦しかったんです。私たちは、息子のためだけにそこにいたのですから。でもやはり、その中毒性の表れにすぎません。

ガブリエル：そうなんです。両親にそんな姿を見てほしくなかったのです。なんとというか、隠れられないのは分かっていました。顔も体も、隠せません。なので、なるべく近づかないようにしました。もちろんこれは、敵です。敵は、もし私たちが再会したら、敵が私を失うとわかってやっています。これは、敵が家族の結束を攻撃し、子どもから親を引き離すのが大好きな証拠です。これが延々と続きました。母が話しているこの旅は、本当に私の心に突き刺さる事の1つでした。覚えているのが、両親の顔を見る事、両



親が私に持っている愛を見る事、私のために笑顔で喜んでくれようとする。しかし両親はもう壊れている。

「これが私の息子。主よ、どうすればいいのですか？ どうすれば、、、」それが顔中に広がっていました。母：そう、心配が、私たちの健康にも大きな影響を及ぼしていました。実は、かつらの買い物を手伝ってくれたのは、彼の親友の一人でした。私の髪が大量に抜けたからです。健康面に多くの問題があって、大変な戦いが続いていました。ですから、息子も私たちも、彼の健康状態が悪化しているのを目の当たりにしていました。私たちの健康状態もね。私は本当に心配でした。しかしそれは、聖句を出し、これを祈ろうと言う私を止めませんでした。これは霊的戦いです。私たちは祈ります。なぜなら、私は主が、そのすべてよりも偉大であることを知っていたので、それに固執しました。私たちは確かにたくさんの祈りを捧げました。また、ドラッグストアに HIV 検査を受けに行きました。

ガブリエル：はい。それについて共有したいと思います。父：再び、また別の、大変な痛みを伴うプロセスの 1 つでした。検査キットを手に入れて検査をさせる。息子自身待っているのが、結果が見えないから、もっと辛かったと思います。何が起こるのか待っているのですから。陰性結果が出たとき、巨大な肩の荷が下りたような感じでした。しかし息子は、またしても、彼が今までの旅を続けるためもう一つのステップに行くのです。息子は戻れない地点にいたからです。その事で目を覚ますのではなく、息子はその生活を続けたのです。ラスベガスにいる間は何をしてでも、部屋と一緒にいようとしました。それがとてつもなく大きな部屋で、軍人だから、アップグレードされたのです。一望できるし、私たちは、息子と一緒に滞在しようとしたのですが、彼は、自分が一番落ち込んでいるところを見せたくなかったのです、拒否しました。それも辛かったです。

ガブリエル：どうぞ。遮ってごめんね。陰性結果が出たことが、どれだけ衝撃的だったか分かって下さい。一つ、言いそびれたことを忘れていたのですが、、、私は中毒にとらわれ、その習慣を支えるため同伴や売春に手を出していました。今まで何人の相手と付き合ってきたのか、その余韻が残っていました。私は、陽性結果が出ると信じて疑わなかった。特にラスベガスでは、文字通り、ただの泥沼のつぼです。なのでそれはただ、神の恵みと慈悲で本当に正直言って、私に別のチャンスを下さったのです。「ほら、あなたは陰性です。」でも無茶しないで。」ええ、具体的に覚えています。それで私は目が覚めたのです。それが道に戻る弾みになったと思います。それが 2019 年 6 月でした。自分の行動がどのような影響を及ぼすのか、本当によく分かるようになりました。母は髪がすべて抜け落ちました。文字通り髪をすべて失ったのです。自分が家族に与えているダメージを経済的にも、目の当たりにし、私の中の中毒が両親の問題になっていたのです。主はそれを私の胸に置き、こう仰いました。「これで終わり。ここがあなたの分岐点です。こっちに行けば、一人で行くことになります。今家に帰りなさい。希望があります。」ベッドの上に座っていたのを覚えています。私が好きだったのが、私の趣味はユーチューブで音楽を聴くことでした。普段聴いている曲をベースにランダム再生していました。それで、どうしてこんなことになったのか、深く考えさせられたのです。どうしたらいいんだろう？ もちろん、神はとても良い方で、これらの祈りに答えてくださいました。本当に祈っていないときでも、口にもしないときでも、神は聞いておられます。ある曲が流れました。フレームというグループの「スタート・オーバー」という曲です。この曲の最初の歌詞が、私の心を切り裂きました。

「誰もが白紙の状態。彼らが今日まで書き続けてきた物語。彼らが登っている壁、過去を背負っても良いし、あるいは、やり直すこともできる。後悔。彼は、あなたを救うためにすべてを捧げた。彼は、十字架

を肩に担いだ。あなたがやり直せるように。」

そのことが、私は完全に固まりました。そんな思いが、家に帰ろうという気持ちになりました。その直後、2019年の7月4日、私は禁酒と贖罪の旅を始めるため、家に引っ越しました。家に戻ったことで命拾いしました。しかし、私の魂はまだ救われていませんでした。2021年3月、神のご方法が正しく、自分が間違っているという考えによろやく降参しました。壁にぶつかるのが嫌でたまらなく、積極的に主を求めようになりました。神に祈ることで、私の進むべき道を、「紅海の明瞭さ」で教えていただきました。神が尊重して下さい、私は覚えています。敵が何年もかけて作り上げた絆や牙城を体系的に壊し始めて下さいました。そして5か月後、本当の意味での信仰の飛躍をするときが来たのです。

日付は2021年8月15日。何年ぶりかで、教会に足を踏み入れました。カウアイ島、オハナクリスチャンフェローシップのグレッグ牧師が、ローマ人への手紙一章から、偶像崇拜と性的な罪について教えていました。24節からです。

「そこで神は、彼らとその心の欲望のままに汚れに引き渡されました。そのため、彼らは互いに自分たちのからだを辱めています。」(ローマ 1:24)

「彼らは神の真理を偽りと取り替え、造り主の代わりに、造られた物を拝み、これに仕えました。造り主こそ、とこしえにほめたたえられる方です。アーメン。」(ローマ 1:25)

「こういうわけで、神は彼らを恥ずべき情欲に引き渡されました。すなわち、彼らのうちの女たちは自然な関係を自然に反するものに替え」(ローマ 1:26)

「同じように男たちも、女との自然な関係を捨てて、男同士で情欲に燃えました。男が男と恥ずべきことを行い、その誤りに対する当然の報いとその身に受けています。」(ローマ 1:27)

「また、彼らは神を知ることには価値を認めなかったので、神は彼らに無価値な思いに引き渡されました。それで彼らは、してはならないことを行っているのです。」(ローマ 1:28)

「彼らは、あらゆる不義、悪、貪欲、悪意に満ち、ねたみ、殺意、争い、欺き、悪巧みにまみれています。また彼らは陰口を言い、」(ローマ 1:29)

「人を中傷し、神を憎み、人を侮り、高ぶり、大言壮語し、悪事を企み、親に逆らい、」(ローマ 1:30)

「浅はかで、不誠実で、情け知らずで、無慈悲です。」(ローマ 1:31)

「彼らは、そのような行いをする者たちが死に値するという神の定めを知りながら、自らそれを行っているだけでなく、それを行う者たちに同意もしているのです。」(ローマ 1:32)

その時、神が直接私に語りかけておられるように感じたのを覚えています。グレッグ牧師への言葉が、御使いの軍勢がメガホンで叫び増幅され、必死に私に届けようとしているように聞こえました。私は今までこんなに泣いたことはありません。その説教の間ずっとです。その神の御言葉のどの節もが同性愛や男としての自分が信じていたあらゆる嘘を、切り裂くのを感じたのです。その日、前に進む準備を感じながら、自信に溢れ歩き出しました。怒りの感情、喪失感と傷と混乱を、置き去りました。イエスに尋ねたのを覚えています。「私に何をしてほしいのですか？ 2年近く連れ添った相棒と別れると本当に仰るのですか？ ほんの数日前に、結婚を考えていた相手と？」

私の心は疑心暗鬼になり、私の肉は今聞いたことを否定しようと必死でした。自分の人生を守りながら、イエスに従う者であるための可能な方法を探したのです。数日が経ち、週に一度の家族での聖書の学びの時間がやってきました。イエスに全てを打ち明ける母が、その日、カウアイ島で一緒でした。母は、何が起きているのかをよく理解していました。私たちは座って、中断したところから学びを再開しまし

た。そして、「自己鍛錬のため」というタイトルの学習ガイドを読み始めました。

訓練1)は、第一コリント人への手紙6章を読むこと。9節まで読みました。稲妻のようでした。

「あなたがたは知らないのですか。正しくない者は神の国を相続できません。思い違いをしてはいけません。淫らな行いをする者、偶像を拜む者、姦淫をする者、男娼となる者、男色をする者、」(I コリント 6:9)

「盗む者、貪欲な者、酒におぼれる者、そしる者、奪い取る者はみな、神の国を相続することができません。」(I コリント 6:10)

「あなたがたのうちのある人たちは、以前はそのような者でした。しかし、主イエス・キリストの御名と私たちの神の御霊によって、あなたがたは洗われ、聖なる者とされ、義と認められたのです。」(I コリント 6:11)

私は衝撃を受けました。心が砕け散る思いでした。この時点で、神が私に語っておられる事を否定することはできなかつた。神は私を愛しすぎて、私が嘘を信じ続けることを許しておられました。神は私に真実を知って欲しかったのです。それがどんなに痛くても。私は母を見つめ、泣き出しました。防具は投げ込まれました。自分が何をすべきかは分かっていました。ただ、それを実行するための勇気と信仰が必要だったので。その夜、私は恐怖でいっぱい、乗り越えさせてくださるようイエスに懇願しながら、車を運転して家に帰りました。玄関に入るとき、私には 主が必要だとわかったのを覚えています。自分一人ではどうにもならなかつたのです。震え、想像を絶する恐怖、最悪の事態を想定しました。もう一緒にいられないということはこの人に、どうやって説明しようかと考えてたのを覚えています。と同時に、神が私たちに用意して下さってるのはもっと良い事だと説明しようと考えてました。しかし、神は。私を乗り越えさせてくださいました。どんなに醜い状況でも、主は私のそばを離れませんでした。主はそこにおられ、私を守られました。「全てが上手く行きます。」と安心を下さいました。今日まで、あの時の私以上に私は神のご存在と愛を感じたことはありません。翌日の昼までに、私は家を出て、人生をイエスに捧げることを決心しました。一拍手喝采ー

2021年8月18日のことです。ちょうど1年前の今日です。一拍手喝采ー

今日、私はキリストにおいて新しく創造された者です。一拍手喝采ー

母：間違いなく苦労はありました。でも私たちの主はそこにおられます。あなたは、私が聞いた証のいくつかを話してくれましたね。これは、アンジェラ・ユアンさんの証ととても似ています。中国からの移民で、彼女の息子さんクリストファーは、彼には多くの希望がありました。歯学部に通っていて、全て良かったけど、彼はパーティーを始めたのです。それから性的関心に道を譲ってしまった。アンジェラさんに、ご主人にとっても、間違いなく拷問でした。彼女は祈って、祈って、祈りました。ガブリエルのように、クリストファーは結局、薬物で刑務所行きになりました凄くよく似ています。その証が、神を信頼する信仰心を養うため私を助けてくれました。キリストの姉妹が、親が、家族の誰かがそれを経験したときに、愛する人をどう対処するかという本をくれました。それは、誰かを失ったときの悲しみの5段階と、否定やその他諸々の段階とが、とてもよく似ています。ユーモアあふれるクリスチャンの作家、バーバラ・ジョンソン。象が乗しかかっているように感じた。悲しみが非常に重すぎるから。その絶望感は、皆さんも共感できるところが多いのではないのでしょうか。ただ絶望し、感じるのは、「どうしたらいいのか？」神を信じる事、そうする必要があると思います。神を信じる事。日記の一部を皆さんに共有します。

JD：スライドを順番に出してください。(ゆかさん/まさかの JD の発言がここ！)

ガブリエルが語ったことを思い起こせば、この時点では、もちろん、私の苦悩のど真ん中でした。私は、キリストとの関係にもっと自分を捧げようとしています。私はそこで刑務所のボランティアをしたり、自殺防止のボランティアをしたりして、これはすべて、息子が自分の世界に深く飛び込む前のことです。すみません、画面を戻してください。これは文字通り、私が聖句に書いたものです。

**「そういうわけで、あなたがたは大いに喜んでいます。今しばらくの間、様々な試練の中で悲しまなければならぬのですが、」(I ペテロ 1:6)**

**「試練で試されたあなたがたの信仰は、火で精錬されてもなお朽ちていく金よりも高価であり、イエス・キリストが現れるとき、称賛と栄光と誉れをもたらします。」(I ペテロ 1:7))**

ええ、あの日、私はガブリエルと会話を交わしました。主との関係で祈るのは、自由意思だと。それから、私がしていたすべてのことに、その週、私のためにいて下さった主への感謝と主の御名へのご栄光と息子が主よ、あなたと純粋な関係を持てるよう、奇跡を起こしてくださいと。祈りには粘り強さが必要だと学びました。他の母親や妻が夫のために苦勞しておられる証がありました。彼女たちは、夫をキリストの下へ導こうとしているからです。彼女らが実際に夫への祝福を受けるまで10年かかったのです。私たちはその地点に向かっていて、目にする事全て、構成するすべての要素が、ストレスや悩みや心配で、あなたの息子さんが、このような状況で行動するなら、彼は命を絶つことを考えますよ。それは間違いなく、彼らの頭の中、心の中にあります。私たちは彼らをととても愛しているから苦勞し、敵は彼らを餌食にしています。ですから、祈って祈って祈ってください。

次のスライドは、私たちはあらゆる苦勞を経験し、なんとという一年だったでしょう。タイトも私も、どれだけ主を愛しているかを示したかったのです。一緒に洗礼を授かりました。しかし同時に、可哀そうな私の息子ガブリエル。彼はもがいていて、その結果、私たちは負担の一部を刈り取りながら、ほとんど財政を圧迫しています。でも、神はいつもそこに来てくださるから、私は尚、神に感謝しているんです。それを経験しながら、新しい仕事も与えて下さり、昇進もしました。主は仰います。「大丈夫、わたしに任せてください。」主がなさいます。皆さん、それを強調したいのですが、祈りも含めて、

「主よ、何があっても、何が起こっても、あなたにお任せします。どうか主よ、私の息子を救ってください。」時に引き下がることも必要です。なぜなら母親として、子どもたちのために、戦いに行こうとするからです。しかし、神はより良い事を知っておられますよね。主は準備万端です。

だから、任せて手放すのです。「わたし(主)がするべきことをさせてください。」息子の旅に関わることに、それがどんなに辛いことであっても、私たちは、神が必要とされることをなさるため神にゆだねる必要があるのです。それは、私たちの時間ではありません。私たちにこの奇跡をもたらす旅ができるよう主にしていただくのを許すのです。それが今日、ここに座っています。次のスライドお願いします。これは息子が刑務所にいた時の物です。賛美せよ、わが神。御父は、私や家族の苦しみを背負って下さいました。私たちは、主がご自身を明らかにされるのを喜びます。主の愛に安住しながら、主のしっかりとした、でも心地よい御手によって、いつもそこにおられるのを感じながら。私は内側から壊れていき、癒しの愛で私を回復させて下さいます。聖霊の純粋さにおいて、私を新しくして下さいます。次のスライドにも続きます。これ以上の祝福はない。私が見たこと経験したことのすべては、この世のものではありません。主の偉大さの要素が この世界を征服し、主の御心を実現することを可能にします。私は、主の愛が私の家族に注がれ、束縛や苦悩を打ち破っておられるのを見て、喜びを感じます。耐え忍び、忍耐し、主に仕えるという旅。そうすることで確信が持てるのです。主は光を与え、道を切り開いて下さると知っていま

す。一拍手喝采一

ガブリエル：締めくくる前に、本当に伝えたいことがあります。重要なメッセージです。このスライドを出してください。LGBTQ コミュニティへの助言です。

母：出来るなら私が読みたいわ。JD 牧師の「エレミア書/涙の預言者」の学びエレミヤ書はとてもぴったりです。

主はこう言われる。「あなたの泣く声、あなたの目の涙を止めよ。あなたの労苦には報いがあるからだ。——主のことば—— 彼らは敵の地から帰って来る。あなたの将来には望みがある。——主のことば——  
あなたの子らは自分の土地に帰って来る。(エレミア 31:16-17)

神は御約束を守ってくださる方です。神はとても力強いです。もう一度言わせてください。私たちの想像を超えるほど、私たちを愛してくださっています。私が息子を愛そうとする以上に、神は息子を愛しておられます。私は、主が息子のために何を望んでおられるか信じる必要がありました。私は何かを望むでしょうが、神はもっと大きなものを望んでおられます。それは、時に、私たちはただそのことを知らず、ただただ神に従うしかないのです。神に委ねるのです。こんにちに集約されると思うのが、希望を共有できるコミュニティです。私たちの時代は本当に荒れていて大変な苦勞していますから。惑わしがすごく高いですよ。息子は、この欺瞞と嘘に捕らわれた人々に希望を与えるため、自分自身を提供しようとしています。私たちの主がおられ、あなたを救い出すため手を差し伸べておられます。

ガブリエル：「しかし、神は。」ですよ？

それで、LGBTQ コミュニティへの私の助言、多くの時間を祈りに費やしました。主が私を通して話されるよう、正しい言葉を与えてくださるようお願いしました。それを聞いた人たちが、私が真理と愛を語っていることを分かってくれるように。スライドをお願いします。どうかちょっと時間を取って、画面を見ましょう。皆さんも、このイメージについて考えていただけませんか？ この子を見てください。テディベアにしがみついています。その子どもになった自分を想像してほしいのです。あなたの人生で、必死にしがみついているものは何ですか？ あなたの本当の幸せを阻むものは何ですか？ 友達ですか？ 愛する人ですか？ プライドですか？ それとも罪悪感ですか？ いかなる場合であっても、私はあなたに強く勧め、懇願します。手放してください。どうか、手放してください。イエスがあなたの想像を遥か超えるものを持っておられることを信じてください。

1年前、この子どもが私でした。クマを持ってはなかったけど。私は、偽りの夢、偽りの信念、偽りの希望をずっと背負っていました。しかし、神は。私が得られるかもしれない事を夢みながら、(失礼) この世のものが、私を幸せにしてくれるかもしれないと夢見ながら、神は私を違う形でお造りになったのだから、神の世界に絶対に入れたいと思っていました。イエス以外の人との関係で喜びを見いだせると思っていました。しかし、神は。今日私は、テディベアを持っています。この世のことを夢見るのではなく、私には新しい世界の夢があります。信者として、神と共に生きて歩むこと。都市は黄金に輝き、罪は東からも西からも遠く離れています。自分が違うように造られたと信じる代わりに、私は今、私たちは皆、神の似姿に完璧に造られたと信じます。今日のような日のために、神の真理と慈悲と愛を世に伝えるために造られました。そして、私は願っています。私が喜びを感じられるような関係を見つけられる希望ではなく、しかし、あなたがその関係を見つける希望です。唯一大切な関係です。十字架で死なれ、私たちの負債を支払って下さった方との関係。あなたの戸口に立っている方。その御心があなたを呼んでおられます。あなたが生まれる前からあなたを心から知っている方。あなたや私が知る以上に、あなたを

愛している方。彼は、あなたを暗闇から輝かしい光に導くため準備して待っておられます。唯一無二の存在。私たちの主で、救い主イエス・キリストです。－拍手喝采－

JD：もう少し時間がありますね。よろしければ、2～3質問したいのです。まず、ご両親への質問から始めます。お二人には、引き際について、非常に非常に本当に意味深いコメントをされましたね。ある時点で、ほとんど降参されました。神がご自分の息子を誰よりも愛していることを知っているという旗印のもとに、聖霊に、余地を与えるというか、その辺り、もう少し詳しく説明していただけませんか？それこそ完全な信仰で、というのも、お二人はただ手放して、「OK。神よ、何があってもいい。」と仰っているからです。

父：ええ、私にとっては、最初から感じていたのは、世の人に信頼を置くのではなく、天の人に信頼を置く事でした。絶対的に。私がある証拠です。息子を見てください。私の母は、私の数あるヒーローの一人で、いつも言っていました。

「祈りなさい。神はあなたを決して見捨てない。あなたの時間ではありません。神のなされる時間です。神の時間はいつも完璧です。」

母：分かった事は、首を突っ込むと、結局は対立するだけなんですよね。それは、私たちの間に深くさびを打ち込むだけです。また、短刀が迫ってくることもあります。でしょう？ だから突っ走ると、どんなに愛する相手でも、敵が、、霊的戦いですからその痛みは、どんどん大きくなっていきます。ただ、自分が間違った方向に進んでいることに気づき、私たちの主に委ねる必要があったのです。そして、祈りによって、主は私にそれを明らかにして下さいました。主を褒めたたえます。

JD：別の質問に切り込みますが、親としてお二人にお聞きしたいのは、つまり、罪悪感や非難です。サタンはそこにおいて、常にお二人を非難し続ける。

「何がいけなかったのか？ それは私への罰だ。もっといい父親になれたはずなのに。もっといい母親になれたはずなのに。」と。何度か、家を不在にしていたというお話がありましたね。それで非難を負い、もちろん敵がそこにおいて、お二人にそれを煽りますよね。そのあたりを少しお話しいただけますか？

父：ええ私の場合、さっきも言ったように、もう少し深いところにあります。私は戦場にいるからです。自慢できるようなことは何もなく、他人の命を奪うことは、決して正しいことではありません。その罪悪感を持ち続けているのが先ほどの話です。これが、善の主が書で仰っている刈り取りと種まきのことなのか？ これが私の家族、特に息子を使って私を罰することによっての私への報復なのか？ 私は、経験してみないと、なかなか説明できないことです。私たち全員が罪びとでありながら、自分の周りを見て言うのは、「なぜ隣ではなく、自分の家なのか？ どのように対処すればよいのか？」間違いなく、天の人とコミュニケーションをとることで、安らぎを得ます。イエスだけが、光を照らすご存在です。それはあなたのせいではなく、選ばれたのだと断言します。生活様式です。その感覚に辿り着くには、時間がかかります。でも、それを手放さなければなりません。それを主の御手に委ねなければなりません。なぜなら、主だけが知っておられるからです。あなたではありません。あなたの時間ではありません。主のお時間です。主の時が、いつだって完璧です。

JD：ガブリエル、君はたぶん、、日曜日に御心なら「第一ペテロの手紙」の学び1節から5節を始めるのだけど、6節7節を学ぶ時は、君に説教してもらいます。－(笑)－

でも興味深くないですか？ 信仰の証ですからね。証明です。でもガブリエル、君に聞きたいのは、ただ、面白いなと思ったのは、私が説教した時、ローマ人への手紙1章を節ごとに見ていきました。忘れもし

ません。もう何年も前のことですが、ローマ書の教えの全体を通して、私は涙しました。私が今まで教えた聖書の中で、最も難しい章の一つでした。それから、もちろん、コリント人への手紙の第一と第二を、節ごとに見ていき、6章を覚えています。ただ呆然とするばかりで敵がそこにいて非難の声を上げるからです。しかし、神は、第一コリント人への手紙6章で使徒パウロを通して、そのクリスチャンたちに語っておられます。その教会の生まれ変わったクリスチャンで、君のように、神がそのライフスタイルから解放されました。神が仰るのは、そこに同性愛を挙げておられ、

**「あなたがたのうちの有人たちは、以前はそのような者でした。」(I コリント 6:11)**

前に君と私で、このことを話しましたが、こういう風に生まれてきたという嘘。これについて少し説明してくれませんか？ まだ少し時間があるので、是非話を聞かせてください。

ガブリエル：もちろんですよ。証を通して話しましたが、敵は大変多くの種を植えます。これこそが、LGBTQのライフスタイルの中で混乱に苦しむ人々に植え付けたい、一番の嘘なのです。私たちは生まれつきではありません。私たちが墮落していないとは言いませんが、敵の嘘に左右されないということではありません。でも、私は皆さんに言います。私たちは騙されたんです。私たちは騙されたんです。私たちはすっかり騙されたのです。上が下、下が上だと考えるように。言える事は、牧師さんが仰る通り、第一コリント6章9節の好きなどころは、希望です。希望。それがみんなに知ってもらいたい事で、希望です。聖書的真理・希望。あなたは一人ではない。これは新しい事ではありません。敵は何年も何千年も、これをしてきています。私たちが騙しているのです。エデンの園から始まりましたが、しかし今や、このような現象に至るところで見えるようになりました。左にも右にも行けません。つまり6月が終わって、、、皆さんのことは分かりませんが、そのような生活から抜け出すのは、とても難しいことでした。今や、鱗が取れて、見る目と聞く耳を持つに至り、プロパガンダを見ると、敵はいとも簡単に若者を洗脳します。できるだけ若いうちに混乱させ始めるのです。敵は、カーテンの裏や暗闇でする必要もありません。学校でやっているんですよ。覚えているのは、私とそのライフスタイルにいた間でさえ、誰にもそんなことを望んだことはありません。なぜ、誰かにいじめやからかわれ、居場所のなさを感じて耐えてほしいですか？ 自分が忌み嫌われているような、馴染めないような、あなたは神の計画の一部ではないような気持ちになるのですよ。でも、それはあくまで敵です。そう敵なのです。その真実を、ここにいる人たちだけでなく、オンラインで聞いている人たちにも伝えることができ、今日はとても幸せです。あれは嘘なのです。嘘です。

JD：最後に、いいですか？ 5分を3人で分担ください。

ガブリエル、お母様、お父様で。放蕩息子や我儘娘のいる親としてここにいる人たちや、視聴している人たちに話してください。このライフスタイルに巻き込まれていても、巻き込まれていなくても、親としてどのような言葉をかけますか？ 決して決して決して希望を諦めないように、どうやって彼らを励ましますか？

母：私からは、私たちの主によって必ずや慰めを得ることができる事です。主は私たちに寄り添いたいと思っておられます。私は、孫娘がまだ小さかった頃、プレゼントを渡すときに、特別な方法でラッピングする方法がありました。彼女が帰って来て渡すと、とても興奮した様子で、それを開けていきます。それから彼女は言います。「私に？これをくれるの？」それが主であられるのを知ってください。主はあなたのためにそれを持っておられます。その贈り物を。ただ主を信頼するだけです。主は私たちを大変愛しておられます。つまり、私の日記や祈りの中で、思い返すと、主はいつもそこにおられます。でしょう？

主を尊び祈りながら考えてみてください。それを書き留めるのが素晴らしいことなんです。見返してみると、「お～なんと言う事。お～、全部あるんだ。全てはそこにあります。そして、振り返ってみてください。主はいつもそこにおられます。私たちは時に立ち止まって、振り返る必要があるでしょう。神が私たちのために働いて下さっていることを奇跡は真実であることを信じてください。私の祈りや日記の中で、ゲイがいなくなるように祈っていたわけではないんです。私はいつも、息子のキリストとの関係を祈っていました。それが大事なのです。主とともに歩むその旅に、彼らを連れて行くことが。それが、私の考えです。

JD：そう仰っていただき感謝です。

父：はい、最初から言っている通り、逆境に対処する方法は人それぞれです。私には私のやり方があります。静かな時間を見つけては、主とのコミュニケーションをとります。全部並べます。我慢しないで。主の御手に全部委ねて、信じるのです。信じるとは、とても力強い言葉です。信じる。でも主と話す時に、遠慮しないでください。私はすべてをさらけ出しました。どんな小さなことも、私の希望の全てを。最後に必ず失うのは、希望です。私は希望を失わなかった。母がいつも言っていたように、

「もし、主がなさらないのなら、それはあなたの祈りが足りないから。」それが、私が皆さんに残したいものです。祈り続けてください。どんな困難があっても、それは誰もが日々抱えているものです。私は朝起きると、まず言うことにしています。「主よ、新しい一日の光を見ることができ、ありがとうございます。」挑戦は来るし、去るものです。でも、息子の事が私には一番難しかったかもしれません。自分の方法で対処しました。妻とのコミュニケーションは絶やさなかったのに。私には特権がないことがたくさんありました。たぶん、私はとても世間知らずだったのです。たぶん私は、そのライフスタイルのために息子を失うという事実と直面したくなかったのです。でも私は一度も、一度も、一度も、息子を愛することをやめませんでした。私の人生は、常に家族のためにあるのです。3つの事があります。ある人が言ってくれました。まず、何があっても、無条件に子どもを愛すること。どんなライフスタイルであっても。無条件に愛さなければならないのです。第二に、できる限りのことを教えなければならない。これを知恵と言います。自分が教えられないことは、学校に行かせれば、教育を受けさせることができます。もちろん 教会に連れて行って、イエス・キリストを学ばせる。そして3つ目、でもそれ以上に、子どもたちを守るべきです。例え彼ら自身からのものであっても。

JD：ガブリエル、最後に分かち合ってほしいのが、あなたがどん底の時があって、その時、ご両親の祈りを感じていた。締めくくりとして、私たちの祈りが捧げられている人として、あなたの視点から分かち合ってください。あなたならどう言いますか？ LGBTQ コミュニティへのメッセージがありましたね。放蕩息子として、親御さんたちへのメッセージは？

ガブリエル：迷う人々には私たちの祈りが必要です。祈りが、私たちを支え、祈りが、今日私がここにいる理由で、私たちの主が私たち一人ひとりに向けておられる愛とともに。決してあきらめないでください。祈ってください。祈って、祈って、祈ってください。そして主を信頼してください。主を求めてください。そして主が答えられても驚かないでください。

JD：お～、それは素晴らしい。主を褒めたたえます。一拍手喝采ー

JD：なんと、、、特に付け加えることはないですね。今夜のタイトル「放蕩息子のための両親の祈りの力」を選んだ理由、P のつく単語をたくさん思いついたからではありませんが、両親が、放蕩息子の為に祈る時、「力」があるからです。あえて言うなら、皆さんもそう思うでしょうけど、祈っていなければ、私た



ちは今夜ここにいないでしょう。同意されますか？ アーメン。

自分の祈りの生活の中で、何年も日記をつけています。祈りの日記は本当に感謝です。読み返してみると、時に、その日記を読み返すのは本当に辛く苦しいものです。でも、そうすることで、もし私が祈らなかつたら、全く違った結末になっていただろうと具体的に記した項目もあります。全能の神の御手による奇跡を受けた者として、私が喜ぶ唯一の理由は、ただシンプルに祈ったからです。敵は、私たちが祈らないようにするため、あらゆることをし、あらゆる手段を講じますよね？ 敵は、それが決め手になると知っているからです。

最後の1つです。まだ最後の1つと言ってませんね？ だから、大丈夫ですね。もう締めくくるので、時計は見ないでくださいよ。私は自分が父親として、天の御父との関係において、あることがありました。天におられる私たちの御父です。具体的に、こんな風に神が私をチェックされました。父親が2人います。ご存知のように、私には2人の息子と娘が1人います。

「あなたの息子には2人の父親がいます。あなたとわたしです。どちらがパワーがありますか？」良く分かりました。私は委ねます。だから、その点非常に感謝しています。とても深い意味があって、神がこう仰っているようです。

「助けようとするのはやめなさい。もっと悪くなります。わたしを邪魔しないで、わたしにさせてください。なぜなら全て終わった時、栄光を手にするのは、あなたではなく、わたしなのですから。あなたには、決してできない、わたしはそういう方法でします。だから、あなたは振り返って言えるわけがありません。」お～これを私がやったからだ。」違います。」

神はそのような方法でされるでしょうし、今までもそうです。そして神だけに全ての栄光が帰されます。それが神のなさったことです。主を褒めたたえます。一拍手喝采一 祈りましょう。

天のお父様。本当に本当に本当にありがとうございます。お～主よ私たちは、感謝してもしきれません。主よ、あなたがなさった奇跡に感謝します。主よ、あなただけがすべての栄光を受けられるのです。シンプルに祈る事で、締めくくりたいと思います。多分もう何年も前から、本当に傷ついている人たち、この貴重なご家族は、何年もこのような目に遭ってきたのです。そして、それが絶望的に思える時、主よ、あなたは希望の神です。あなたがその希望を回復し、新たにして下さるのを祈ります。疲れて望みを失っている人の心に聖なる御力と励ましをお願いします。主よ、彼らの希望を回復させてくださいますように。祈り続け、あなたを信頼し続けるということ。そして、あなたがなさろうとしていることを信仰によって、前もって褒めたたえ、感謝するところまで導いて下さい。イエスの御名によって祈ります。アーメン、アーメン。

---

メッセージ by JD Farag 牧師カルバリーチャペルカネオヘ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 hukuinn7